

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

---

# それぞれに異なる道のりがある

---

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **笠原 智晴**

---

## 通信教育を始めるまで

---

このたび寄稿の依頼を受け、改めて卒業までを振り返る機会となりました。

東北福祉大学の通信教育部に関心を持ったのは10年ほど前で、統合失調症を持つ友人や不適応状態の子供を持つ親達から話を聞くことが度々あったからです。「正しい知識を持って接し、支援できるようになりたい。周囲の人たちが、身近に何らかの問題を抱えている人に気づき、差別・偏見を改善していくのはどうしたらよいのだろうか」という思いを持っていました。その後、介護の仕事に就き、介護福祉士の国家試験を受けたすぐ後に、通信教育部の合同説明会が開催されることを知りました。社会福祉に関する知識を深め、援助技術を学びたい。しかし、続けられるだろうか、実習はどうしたらいいだろうか、迷いましたが「やってみなければ進まない、どうしてもだめなら辞めればいい。この説明会を知ったのは偶然じゃない」と自分に言い聞かせ、平成24年ようやく決心して入学しました。

## 学習・ペースダウン・紆余曲折

---

3年次編入でしたが、実習し卒業までに4年かかりました。単位修得はすべてスクーリングを受講しました。講義を受けている実感、先生方や同じく学ぶ友と話ができることはよい刺激となりました。レポートは、講義中に重要なポイントを説明することがあり、スクーリング後の方が書きや

すかったです。とは言え、課題や実際問題の認識の浅さ、技術面の拙さ、パッチワークのような文面もあり、返却されてくると、合格の嬉しさと同時に恥ずかしさも感じました。

しかし、スクーリングが受講できなかったり、レポートが書けずに溜まってくると、同時期に始めた人たちからだんだん遅れていくのを感じました。気持ちが行動に出るのか、体験学習も遅くなり、次年度の実習を見送りました。仕事と家庭、さらに地域での役割を持ちながら、2年目での実習・卒業は大変厳しいものだと思えます。

また、3年目の実習申込みも悩みました。通信教育や社会福祉士の資格を取ることは業務命令ではなく、自分の向学心からです。「実習のために職場から休みがもらえるだろうか。実習を最後まで続けることができるのだろうか」と不安が生じ、3年目での実習も見送りました。そして、まずは『卒業』に目標を切り替え、科目等履修生として社会福祉士を目指すという自分なりの逃げ道を考えました。卒業の手続きをしようと事務局に相談すると、「卒業単位は満たしているが、社会福祉学科としては足りない科目がある。それを履修するには翌年になる」とのことでした。1年卒業を延ばすなら、実習に行き、国家試験を受け、そして卒業しようと、本気で実習に向きあう覚悟を決めました。紆余曲折しながらようやく本ルートに戻ってきたように思えました。

## 実習・スーパービジョン

---

実習先は社会福祉協議会と地域包括支援センターでした。講義で学習した知識が実社会のなかでどのように展開されているのか、実際を見て学ぶことができました。社会福祉協議会の実習では『気づく』力を育てることや、偏見・差別の改善に向けての答えのひとつを見つけることができました。地域包括支援センターでは、施設の外で展開されている高齢者福祉を

体験できたことで、自分の仕事と関連づけて考えるようになり、視野が広がったと感じています。

かけがえのない体験をさせてもらい、実習は無事終了しました。実習指導者の方からは、実習計画を具体的なものに導いていただいただけでなく、最後のまとめ・報告の際にも大きく力を貸していただきました。また、教員の方々には実習内容以外のことも相談させていただき、前向きに実習に臨むことができました。これがスーパービジョンなのだと実感し、その重要さを感じました。

## 国家試験にむけて

---

最後の実習指導・演習が終わったのが11月末、それからが試験勉強本番、もう秒読み段階でした。とにかく過去問題集と予想問題集の解説を読み、そこに書き込みをしました。記憶力・集中力の低下に悩まされ、何度も同じ用語を調べることもありました。何度か試験形式で問題を解き、時間配分やマークシートの記入に慣れるようにしました。試験当日は、交通がマヒする大雪、試験会場に着いてから、時計が止まるというアクシデントがありましたが、自分のペースがわかっているので焦ることはありませんでした。

## 終わりに

---

社会福祉援助技術は、介護にも通じるものが多く、仕事に臨む姿勢が変わりました。福祉心理学で『思い出の中に絶対に崩れない強固たる生きがいがある』と学んでからは、認知症高齢者への接し方を改めて考える機会となりました。卒業のために、心理系の科目を履修したことも、大きな財産となっています。卒業までの4年の月日は私には必要な時間であり、無

駄ではなかったと思います。さまざまなことがあり、プラス思考で物事を捉えられる様になってきました。

明確な目標を持ち、綿密な計画を立て、期限を決めて学習し卒業される方もいれば、不測の事態や何らかの理由で時間が掛かっている方もいます。ようやく卒業した私から、「今、低調でも諦めない。必ず動き出せる時期が来る。それぞれ異なる道のりがあり、思いは形になる」と伝えたいです。

最後になりますが、ある日の帰宅途中7時半頃、事務局から「演習Aを受けませんか」という電話をいただきました。レポートが間に合わず申し込んでいませんでしたが、レポートはこれから出せばいいからと、受講を勧めてくれました。このことはずっと私の励みになり、そこを通るたびに蘇えり、前に進むよう背中を押してくれているようでした。この紙面を借りてお礼を申し上げます。事務局の方、先生方、そして改めて家族にも、おかげさまで卒業できました。本当にありがとうございました。

これから私が相談業務に就くことは難しいと思います。地域住民の一員として、自分ができる何かを探しながら地域福祉に携わってきたいと考えています。

## スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

### ●レクリエーション概論 山内 直子・金 義信 仙台

- ・レクリエーションを通じて、場の雰囲気や和ませることができ、コミュニケーションが取れることで、相手との距離感を縮ませることができると感じました。

### ●レクリエーション実技 山内 直子・金 義信 仙台

- ・簡単な道具で世代を問わず、レクリエーションできるということが実際に体験してみてよく理解できた。グループ対抗になると風船1つで皆が熱中できるが、一番大切なのはコミュニケーションを取るのだということがよく分かった。
- ・このような楽しいスクーリングは初めてでした。職場に戻ったら実際にレクの時間にやってみたいです。

### ●障害者福祉論 齋藤 征人 札幌

- ・当事者の方の力を信じることで、持っている力・能力・得意とするところを引き出す、発揮できるように支援することが大事だということに改めて感じました。先生は知識も豊富で、引き出しがたくさんあってスクーリングに参加することで勉強になります。そして現場の事情も分かった上での講義をしてくださるので、共感できることが多くあります。

### ●福祉経営論 石田 力 札幌

- ・理論や実験等、内容が少し難しかったが、実践や具体的エピソードと関連する話が聞けて分かりやすかった。内容が多く大変でしたが学びが多くあった。国試対策に繋がる講義や資料が親切でよかった。

### ●人格心理学 皆川 州正 仙台

- ・いじめが起こった場合であっても加害者も含め、誉めて正のストロークを与えることで、変えていくという点に関心を持ったと同時にとても考えさせられた。関わり方で子どもたちは変化していくことに関心を持った。

### ●老年心理学 吉川 悠貴 仙台

- ・高齢者を取り巻く様々な角度からの高齢者への精神的影響について、幅広くまなぶことができ、また他の学生との交流のあるスクーリングで長時間でも楽しく学ぶことができた。
- ・特に認知症の分野では理解が浅いことで、症状を悪化させてしまう可能性があること、社会的・文化的な考え方の影響で周囲に助けを求めにくいことから、虐待など様々な問題が生じてしまっていることに深く考えさせられた。